



和適小

ニュースレター

NO.2



2019.2.1

今回は、忘れ物の話。

校舎を回りいろいろなクラスの授業を見させてもらっています。クラスの中には様々な子どもがいて、考え方やとらえ方が違うことが多く、算数でも国語でも社会でも、「違い」がいろいろと学ばれているなどと感じることが多々あります。たまに、教師やクラスの児童が困っている場面に出会うことがあります。その一つが、「忘れ物」です。忘れ物について『なるほど。』と思うコラムがありましたので、紹介します。

「忘れ物が多いとどうなるか？」

●子どもの忘れ物で悩む先生

つい先日、ある知り合いの先生とスーパーでばったり会って、立ち話をしました。

その先生は、子どもたちの忘れ物が非常に多くて困っているそうです。その忘れ物について、親の中にはこう考える人がけっこういます。

「忘れ物をすれば自分が困るだろう。自分が困れば、それに懲りて直すだろう」

これを私は自業自得方式と呼んでいます。実際にはこれで忘れ物が減るということはありません。

私はこれで直った子を見たことがありません。もし本当にそれで直るなら、忘れ物をする小学生はすくなくなくなるはずですよ。



●自業自得方式で忘れ物が減ることはあり得ない

実際には、忘れ物の多い子を自業自得方式で放っておくと、ますます忘れ物をするようになります。すると、ますます先生に叱られることが増えます。友達にも何かしら言われます。

「え、また、線引き忘れたの？ ちょっとだらしがないんじゃない？ 今回は貸してあげるけどさ、この次はもう貸してあげないからね。もっとしっかりしなきゃダメじゃん」

これくらいのことは言われるでしょう。すると、子どもの自己肯定感はボロボロになってしまいます。

●忘れ物をする授業に集中できない

また、授業で使う物を忘れると、子どもの授業への集中度は一気に下がります。

「しまった、線引きを忘れちゃった。おかしいな、入れたはずなのに。どうしよう？友達に借りて済ませようか？それとも先生に言った方がいいかな？言うとな怒られるかな？どうしよう？」などと考えている間に授業はどんどん進みます。

その間、先生の話などぜんぜん耳に入りません。ハッと気がつきときには、授業で何をやってるのかわからない状態です。ですから、忘れ物が多いと学力も落ちます。どう考えても、学力が上がるなどということはありません。

●子どもも自業自得方式を身につけてしまう

また、親が自業自得方式で育てていると、子どもはその方式そのものを身につけてしまいます。一番身近な親の考え方や生き方というものは、ジワジワと染み込むように伝わるのです。

まさに、子どもという存在は、「親の言うことは聞かないけど、やっていることは真似する」と言われる通りなのです。

つまり、子どもは自分の友達に対して自業自得方式を応用するようになります。たとえば、友達が何か忘れ物をしたとします。

「え、お前、線引きを忘れたの？だらしがないなあ。ちょっと困って懲りたほうがいいよ。そうすれば気をつけるようになるだろう。お前のためにも貸してあげないよ。貸すとお前のためにならないから」

こうすることで、つめたい対応になってしまうのです。



親野智可等さんホームページより抜粋

確かに、今まで関わってきた子どもたちのことを思い起こすと、忘れ物が多い子は自己肯定感が低かったように思います。子どもに自立してほしいと「もう〇年生だから」と高いハードルを跳び越えさせようとしてしまうこともあります。跳び越えられそうにないときには、低くしたり、一緒に跳んだり、跳び越えられるという自信がつくように支えてあげないといけないのかもしれないですね。

次回は、この続きをお伝えします。